注目のＡＩ関連事業の伸長と採算性改善を確認

エグゼクティブサマリー

同社の 2027 年 3 月期 第 1 四半期連結業績は、概ね計画の範囲内ではあるが、特定顧客向けの大型案件が収束した影響が大きく減収減益となった。注力しているフォーカスビジネスも大型案件の反動減から減収となったものの、AI 関連の大幅な増加が貢献しフォーカスビジネスの売上比率は向上。その結果、先行投資負担を吸収し粗利益率は 22.5%（同+0.6pt）へと上昇。大型案件の反動影響がある一方、粗利益率の改善を進めており、収益構造改善の兆しが感じられた決算であった。

今期通期では過去最高業績更新の見方に変更は無い。前期の大型案件の反動や AI 分野などへの先行投資負担から成長率は過去 3 年程度と比較してもやや鈍化するものの、成長領域と高収益ビジネスへのシフトによる業績伸長が期待される。さらに、今期の総還元性向は 93%が計画されており、総還元性向 93%という水準は手元資金の総資産比率を 33%以下へと計画的に引き下げるプロセスでの過渡的なものと理解すべきだが、株主の期待する方向に経営を進める株主フレンドリーな姿勢を明確にしている。今後は業績の伸長に加えて、アセットライトの財務戦略により資産効率の改善が更に進む見通し。

NexIR では同社を従来の「人月積算型のシステムインテグレータ（以下、SIer）」から、クラウド、EAS、AI・生成 AI ソリューションまでをおさえた「高付加価値ソリューション提供者」へと、その付加価値を中長期的に高めつつある点に注目すべきと考えている。

国内の SIer 事業を主力とする主な企業の株価バリュエーション比較において、同社株価は PER、EBITDA 倍率などの株式指標が割安な水準に位置している。今後、成長の期待される AI 関連企業の中で、高配当、低バリュエーション企業としての再評価が求められる。

DTS

Key Statistics

主要株価指数	
直近株価（2026/10/13）	¥1,144.00
52 週高値・安値	¥1,362.00/¥958.00
発行済株数（除く自己株式）	159,149,028 株
時価総額	182,066 百万円
PER	15.6 倍
PSR	1.28 倍
配当（配当利回り）	会予 ¥38.00(3.32%)

セクター	
	情報・通信

財務指標（2027/03 期予想）	
売上高	142,000 百万円
売上高営業利益率(%)	12.0%
売上高 EBITDA 比率(%)	12.9%

Management	
President & CEO	北村 友朗
URL	https://www.dts.co.jp/

NexIR View

大型案件の反動影響により減収減益となったが、中長期的な収益力向上につながる動きを確認

第 1 四半期決算は想定の範囲内ではあるが、銀行向けの大型案件の反動減などにより減収減益となった。ただし、フォーカスビジネス比率は 62.9%（前年同期比+2.2pt）へと上昇し、その結果、AI 関連などへの先行投資負担を吸収し粗利益率は 22.5%（同+0.6pt）へと向上を果たした。大型案件の反動により減収減益となった一方、粗利益率の改善や AI・生成 AI の伸長など、中長期的な収益力向上につながる動きも確認された決算であると考える。

フォーカスビジネスでは AI・生成 AI が大幅に伸長

前期は顧客の「既存システムからクラウド・SaaS・自社ソリューションへの移行」という強い実需を的確に捉え、クラウド＆モダナイゼーションと Enterprise Application Services の 2 分野が業容拡大を牽引したが、第 1 四半期は AI・生成 AI が大幅に伸長した。まだ第 1 四半期実績であるため継続的な確認が必要であるが、AI 関連事業は、AI を活用した自社プロダクトのライセンス売上や特化型ソリューション単体の販売にとどまらず、AI を動かすためのインフラ構築や、既存のシステムへの AI の組み込みといった、AI 導入に伴うインテグレーション需要をも包含する大きな業績拡大のドライバーとなる可能性があることから、今後の展開が注目される。

割安な水準に位置している株価の再評価が求められる

国内の SIer 事業を主力とする主な企業の株価バリュエーション比較において、同社は割安な水準に評価されていることが確認される。大きな成長が期待される AI 関連業界の主要なプレイヤーであり、同時に自社株買いなどを通じてやや健全すぎる自己資本のスリム化が進むことで、業績の伸長と合わせて ROE の成長が期待される同社株価の水準訂正が求められる。

2027 年 3 月期 第 1 四半期業績分析：収益構造改善の兆し

連結業績概況

同社の 2027 年 3 月期 第 1 四半期連結業績は、売上高 310.2 億円（前年同期比 5.7%減）、営業利益 33.3 億円（同 11.1%減）、純利益 23.1 億円（同 14.4%減）となり、概ね計画の範囲内ではあるが減収減益となった。売上の減少により売上高営業利益率は 10.7%（前年同期比－0.7pt）へと低下したものの、粗利益率は 22.5%（同+0.6pt）へと上昇。大型案件の反動影響を吸収して、粗利益率の改善を進めており、収益構造改善の兆しが感じられた決算であった。

連結財務ハイライト

(百万円、%)

	FY03/2026 Q1	FY03/2026 Q2	FY03/2026 Q3	FY03/2026 Q4	FY03/2026 通期	FY03/2027 Q1
売上高	32,908	34,018	31,409	36,877	135,213	31,020
前年同期比	13.9%	9.9%	0.8%	5.6%	7.4%	-5.7%
売上総利益	7,217	7,576	7,481	7,401	29,676	6,966
売上総利益率	21.9%	22.3%	23.8%	20.1%	21.9%	22.5%
前年同期比	15.7%	8.6%	5.6%	-8.3%	4.6%	-3.5%
販売管理費	3,467	3,243	3,239	3,291	13,241	3,632
営業利益	3,750	4,332	4,242	4,109	16,434	3,334
営業利益率	11.4%	12.7%	13.5%	11.1%	12.2%	10.7%
前年同期比	26.0%	24.5%	9.3%	-1.1%	13.4%	-11.1%
経常利益	3,946	4,286	4,506	4,201	16,940	3,468
前年同期比	30.1%	19.4%	12.5%	-13.0%	9.6%	-12.1%
純利益	2,696	2,769	3,061	3,116	11,644	2,309
前年同期比	32.1%	14.7%	11.8%	-9.4%	9.5%	-14.4%

出所：決算報告会資料、決算短信をもとに NexIR 作成

セグメント別分析：高付加価値領域へのシフト

フォーカスビジネスの領域の中でもクラウド＆モダナイゼーションが当セグメントの成長を牽引するであろうという見方に変更は無いが、先行投資領域ではあるものの外部環境のフォローを受け AI・生成 AI が想定以上の成長を示しており今後の展開が注目される。

業務＆ソリューションセグメント

売上高 129.9 億円（前年同期比 2.9%減）と減少したものの、営業利益は 17.8 億円（同 4.1%増）と増益を達成した。売上の減少は特定メガバンク向けの大型案件が収束した影響を、生命保険会社向け案件や公共関連の案件開発の拡大では吸収しきれなかったため。一方で利益の増加は、単金上昇の効果が大きかった模様。メガバンクの大型案件収束の影響を除外すれば継続的な成長を実現しつつ、堅守ビジネスからフォーカスビジネスへの移行も進んでいると考えられる。

テクノロジー&ソリューションセグメント

売上高 109.8 億円（前年同期比 1.7%減）、営業利益 9.6 億円（同 22.2%減）と、大型の基幹系システム刷新案件の反動影響、人材育成などへの成長投資により減益となった。ただし、証券会社向けのクラウド基盤構築や、製造業向けの mcframe 導入、ServiceNow を活用したワークフロー刷新などは成長を続けており、今四半期の実績を不安視する必要は無いと考える。このセグメントは、高い成長率が見込まれているフォーカスビジネスの比率が引き続き最も高く、今後も高い成長が期待できる見方に変更は無い。

プラットフォーム&サービスセグメント

売上高 70.3 億円（前年同期比 15.6%減）、営業利益 5.8 億円（同 27.1%減）と、仮想化基盤への移行やバックアップ需要などを捉えた基盤・インフラ領域のソリューションが拡大したものの、ライフサイクルマネジメントサービス案件の反動等の影響が大きかった。

セグメント別 業績

(百万円、%)

	FY03/26 Q1	FY03/26 Q2	FY03/26 Q3	FY03/26 Q4	FY03/26 通期	FY03/27 Q1
売上高						
業務&ソリューション	13,390	13,289	12,778	13,351	52,810	12,997
前年同期比	11.8%	-0.3%	-6.0%	-6.6%	-0.7%	-2.9%
テクノロジー&ソリューション	11,183	11,593	11,287	11,934	45,998	10,989
前年同期比	10.8%	8.7%	7.4%	2.9%	7.3%	-1.7%
プラットフォーム&サービス	8,334	9,135	7,343	11,592	36,405	7,033
前年同期比	22.3%	31.1%	4.3%	28.8%	22.1%	-15.6%
営業利益						
業務&ソリューション	1,713	1,854	1,919	2,021	7,507	1,783
前年同期比	13.5%	26.6%	12.8%	-5.0%	10.4%	4.1%
テクノロジー&ソリューション	1,236	1,563	1,456	1,223	5,478	961
前年同期比	52.6%	23.6%	8.8%	4.5%	19.5%	-22.2%
プラットフォーム&サービス	805	912	870	855	3,442	587
前年同期比	20.3%	24.1%	3.3%	1.1%	11.3%	-27.1%

出所：決算報告会資料、決算短信をもとに NexIR 作成

フォーカスビジネスの概況：AI・生成 AI が急速に拡大

フォーカスビジネス売上高としては、その他フォーカスビジネスの“ライフサイクルマネジメントサービス”案件等の反動が影響し、4.3%減収の 195.2 億円となった。ただし、フォーカスビジネス売上高比率は、62.9%で前年同期比プラス 2.2 ポイントとなり、フォーカスビジネスへの集中は着実に進展した。特に先行投資領域における、AI・生成 AI の売上高が 8.2 億円に拡大し、前年同期比プラス 5.9 億円と全体のマイナス幅を相殺する原動力となった。AI 領域は全てのセグメントで伸びており、AI 駆動型の開発やユーザーにおける AI 活用支援などを進めており、今後も成長を牽引することが期待される。

フォーカスビジネスの推移　(単位：億円)

領域名		FY03/27 Q1	前年同期比	
フォーカスビジネス		**195.2**	**-4.3**	**売上構成比は 62.9%に+2.2pt 上昇**
集中投資領域	①クラウド＆モダナイゼーション	68.2	0.2	基幹システム再構築、ハイブリッドクラウド環境構築
	②データ活用	6.6	0.4	データ統合基盤開発、Informatica 開発
	③セキュリティ＆マネージドサービス	15.7	-0.9	AMLion、ReSM、ゼロトラストセキュリティ
	④Enterprise Application Services	34.2	-0.8	基幹業務ソリューション、ハウジングソリューション
	⑤IoT＆エッジテクノロジー	25.3	1.9	組込み開発、車載開発用プロダクト販売、RFID 関連ソリューション
先行投資領域	⑥AI・生成 AI	8.2	5.9	AI インフラ、HPC ※導入生成 AI を活用したコード自動生成
	⑦CX（顧客体験価値）	8.3	0.7	CRM システム開発、デジタルマーケティング業務
その他フォーカスビジネス		28.5	-11.8	PC 等の LCM ※サービス開発案件におけるローコード/ノーコード活用

※HPC：ハイパフォーマンス・コンピューティング　※LCM：ライフサイクルマネジメント。出所：会社資料をもとに NexIR 作成

2027 年 3 月期通期見通し：過去最高業績の更新と財務のスリム化

今期も過去最高収益の更新が見込まれる

今期通期では売上高 1420 億円（前年同期比 5.0%増）、営業利益 170 億円（3.4%増）、経常利益 173.5 億円（2.4%増）、当期純利益は 117 億円（0.5%増）といずれも過去最高業績更新の見方に変更は無い。前期の大型案件の反動や AI 分野などへの先行投資負担から成長率は過去 3 年程度と比較してもやや鈍化するものの、成長領域と高収益ビジネスへのシフトによる業績の伸長が期待される。

セグメント別収益推移、及び今期会社計画

(百万円、%)

	FY03/2024	FY03/2025	FY03/2026	FY03/2027 会予
売上高	115,727	125,908	135,213	142,000
前年同期比	9.0%	8.8%	7.4%	5.0%
業務&ソリューション	43,663	53,207	52,810	57,000
テクノロジー&ソリューション	42,214	42,877	45,998	49,500
プラットフォーム&サービス	29,849	29,823	36,405	35,500
営業利益	12,508	14,489	16,434	17,000
前年同期比	7.0%	15.8%	13.4%	3.4%
営業利益率	10.8%	11.5%	12.2%	12.0%
業務&ソリューション	5,331	6,802	7,507	7,600
テクノロジー&ソリューション	4,193	4,583	5,478	5,800
プラットフォーム&サービス	2,978	3,092	3,442	3,600
経常利益	12,831	15,457	16,940	17,350
前年同期比	7.5%	20.5%	9.6%	2.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	7,293	10,635	11,644	11,700
前年同期比	7.5%	20.5%	9.6%	0.5%
EBITDA	13,587	15,618	17,790	18,350
前年同期比	9.3%	14.9%	13.9%	3.1%

Note：会予＝会社予想。出所：会社資料をもとに NexIR 作成

集中投資領域での成長と 1 人当たり利益の拡大

同社が重視しているのは、積極的な成長投資を通して得られる高付加価値化による収益性の改善と、「国内一人当たり営業利益（生産性）」の向上といえる。

同社は現在、利益率自体は受託開発よりも低い傾向にあっても、追加の人員投下を必要とせずにトップラインを押し上げ、結果として人的生産性を効率的に積み上げられる「ライセンスビジネス」や「ハードウェア、インフラ構築ビジネス（GPU サーバーや量子 HPC 等）」を戦略的に拡大している。

3 年間で 100 億円を計画している M&A 投資は、即効性の高い売上高の拡大に大きく寄与する一方で、短期的にはのれん償却費や

立ち上げコストなどの負担により全社利益率の押し下げ要因となり、利益貢献には相応の時間がかかる。したがって、中期経営計画（2025-2027）が描くシナリオは、営業利益率の急上昇を狙うものではなく、「利益率は 11.5～12.0%程度で安定的に推移させつつ、成長投資の実行と高付加価値ビジネスの取り込みにより、営業利益額を 144.8 億円（2025 年 3 月期実績）から 187 億円（2028 年 3 月期目標）へと確実にスケールさせる」という、現実的かつ資本効率を重視したものである。今期もこの中期経営計画に沿った高付加価値ビジネスの追及と生産性の改善などにより、先行投資負担を吸収して過去最高収益の更新が見込まれる。

AI 領域の拡大に伴う期待と不安

AI・生成 AI は同社の戦略において「先行投資領域」として位置付けられており、現在は導入期から成長期への境界線にあると思われるが、近い将来、飛躍的な業績拡大に貢献することが期待される。AI といってもそれは、AI を活用した自社プロダクトのライセンス売上や特化型ソリューション単体の販売にとどまらず、AI を動かすためのインフラ構築や、既存のシステムへの AI の組み込みといった、AI 導入に伴うインテグレーション需要をも包含する。同社は 2030 年に AI 分野で売上高 100 億円という数字を掲げているが、同社のハイレベルな SIer としての実績に鑑みれば、この目標から大きく上振れた実績が創出される可能性は高いとみるべきだろう。

SIer のビジネスモデルにおいて、たとえば AI 導入で開発生産性が 30%向上すれば、それは従来の「人月単価×工数」というビジネスモデル（人月商売）においては、売上高は 30%減少する可能性がある。株式市場はこの構造的なリスクを警戒していたと考えられる。ただし、同社はこのリスクに対し以下の 2 つの対策を講じており、マイナス面は概ね吸収し、AI 市場拡大のメリットを大きく受ける可能性が高いと考える。

1. **プライシングモデルの高度化**
   同社は単純な労働力提供から、特定領域（消防、金融犯罪対策、住宅 CAD 等）における「業務解決価値」の提供へと軸足を移している。具体的には、AI 活用を前提とした独自の開発標準の適用などを通じて、単純な工数提供ではなく「顧客への提供価値」をベースとしたプライシングへの移行を志向している。これにより、開発期間が短縮されても、同社が受け取る対価水準は維持され、利益の向上に繋がる構造への転換を進めている。

2. **スループット（案件回転率）の向上**
   現在、SIer 業界全体が深刻な人材不足にあり、同社もテクノロジー&ソリューションセグメント等で「引き合いはあるがリソースが足りず受注を制限している」状況にある。また、システムエンジニアの中でも各個人に得意領域、不得意領域が存在するため、新しい技術の立ち上げ導入期には人材不足が深刻化する傾向はこれまでと大きくは変わらない。ただし、開発における AI 活用によって個々のエンジニアの生産性を 30%向上させれば、それは売上の減少ではなく、これまで取りこぼしていた需要を拾い上げる「キャパシティの 30%拡大」として活用することも可能になる。つまり、SIer の中でも AI の利活用を十分に進めている企業であれば、市場の DX 需要が供給能力を上回っている限り、生産性向上はそのままトップラインの成長と利益率の改善に帰結する。

財務戦略と配当政策

SIer のビジネスモデルの特徴は、世の中に提供され続ける新しい IT 技術をユーザーに最適なものを組み合わせてユーザーのビジネスに有意に活用出来るようシステム構築することが生業であるため、成長が期待される AI 業界にあっても、ビッグテックのように大型サーバーへの巨額な設備投資は不要なうえ、LLM や生成 AI などへの巨額な研究開発投資も必要としない。このため、一部海外ビッグテックのような極めて高い収益率は期待しにくい一方で、アセットライトで安定して比較的高い収益性の確保が期待できるビジネスモデルと言える。同社の前期、売上高営業利益率 12.2%、資産回転率 1.58、ROE19.2%、自己資本比率 74.5%という実績を見ても、このビジネスモデルでの有力企業である同社の現在実現している収益性の高さと過去の収益の蓄積をよく表している。一方で、やや健全すぎる自己資本比率を軽くすることで、多くの投資家が好むように資産効率が改善することも明らかである。

このような実態の元、同社は稼いだキャッシュを以下の優先順位で配分すると説明している。

1. **フォーカスビジネスへの再投資**
   M&A を除く成長投資として、「人材投資」「設備投資」「研究開発投資」「その他事業投資」に資金を配分。開発標準の高度化に加え、AI 人材をはじめとした高度プロフェッショナル人材の育成を進めている。
2. **戦略的アライアンス（M&A、資本提携、業務提携、産学・地域連携、100 億円枠）**
   2026 年 3 月期は実績がなかったが、2027 年 3 月期以降は以下の方針に基づき買収や提携を狙う。
   (1) 注力事業の強化（DTS の集中投資領域において強みを有し、DTS グループとの事業シナジー創出が期待できる企業）
   (2) 新規事業の拡大（DTS の先行投資領域において強みを有し、DTS グループとの事業シナジー創出が期待できる企業）
   (3) 地域拠点拡大
   (4) 人材確保
3. **株主への直接還元**
   継続的な増配と機動的な自社株買いを進めていく方針。さらに、魅力的な M&A 案件に対してはデット・ファイナンスを活用する方針を打ち出しており、成長と還元を高い次元で両立させていく見通しである。

今期の株主還元の計画

今期の株主還元の計画は以下の通り。

- **年間配当：38 円（配当性向 50.7%）**
- **自己株式取得：50 億円**
- **総還元性向：93.0%**

総還元性向 93%という数字は、手元資金の総資産比率を 33%以下へと計画的に引き下げるプロセスでの過渡的なものと理解しているが、株主の期待する方向に経営を進める株主フレンドリーな姿勢を明確にしている。今後は業績の伸長に加えて、アセットライトの財務戦略により資産効率の改善が更に進み、成長の期待される AI 関連企業の中で、高配当、低バリュエーション企業としての評価が求められる。

連結業績

決算期	売上高 (百万円)	前年同期比(%)	営業利益 (百万円)	前年同期比(%)	経常利益 (百万円)	前年同期比(%)	当期利益 (百万円)	前年同期比(%)	EPS (円)	PER (倍)
FY03/2019	86,716	104.3	9,789	114.8	9,929	115.8	6,817	118.2	292.2	14.0
FY03/2020	94,618	109.1	10,674	109.0	10,849	109.3	7,317	107.3	158.0*	11.9
FY03/2021	90,493	95.6	10,817	101.3	11,131	102.6	7,593	103.8	165.4	15.3
FY03/2022	94,452	104.4	11,196	103.5	11,403	102.4	7,853	103.4	172.7	15.5
FY03/2023	106,132	112.4	11,694	104.4	11,932	104.6	8,001	101.9	181.4	17.8
FY03/2024	115,727	109.0	12,508	107.0	12,831	107.5	7,293	91.2	168.5	23.9
FY03/2025	125,908	108.8	14,489	115.8	15,457	120.5	10,635	145.8	253.8	15.7
FY03/2026	135,213	107.4	16,434	113.4	16,940	109.6	11,644	109.5	72.94**	14.1
FY03/2027 会予	142,000	105.0	17,000	103.4	17,350	102.4	11,700	100.5	75.00	14.4

出所：会社有価証券報告書および会社 IR 資料をもとに NexIR 作成
Note：会予＝会社予想、百万円以下切捨て、小数第二位四捨五入
*) 2019 年 7 月 1 日付で 1 株につき 2 株の株式分割を実施しており、FY03/2020 の EPS は期首に分割が行なわれたと仮定して算定した数値
**) 2025 年 10 月 1 日付で 1 株につき 4 株の株式分割を実施しており、FY03/2026 の EPS は期首に分割が行なわれたと仮定して算定した数値

国内競合他社との株価バリュエーション比較

主要な株価バリュエーションの同業比較において同社の割安感は強い

国内 SIer 業界では、最大手の NTT データが NTT に完全子会社化され上場廃止となり（2025 年 6 月）、大手の SCSK も住友商事が完全子会社化を目的とする TOB によって上場廃止（2026 年 3 月）となっている。業界最大手を含む大手企業がグループ戦略強化の目的で上場廃止となる異例の状態にあるといえるが、それだけ同事業の戦略的な意味の大きさを示していると言えよう。

国内の SIer 事業を主力とする主な企業の株価バリュエーションと財務指標を以下に示す。あくまで、SIer 事業を主力とする企業での比較とするため、商社事業が主力と思われる企業などは含めていない。代表的な収益指標である PER、EV/EBITDA の比較において同社は割安な水準に評価されている。大きな成長が期待される AI 関連業界の主要なプレイヤーであり、同時に自社株買いなどを通じてやや健全すぎる自己資本のスリム化が進むことで、業績の伸長と合わせて ROE の成長が期待される同社株価の水準訂正が求められる。

国内 Sier 事業を主力とする主要企業の時価総額、株価バリュエーション、財務指標比較　(単位：百万円、倍、%)

Code	企業名	企業価値	時価総額	PER	PBR	EV/EBITDA	予想配当利回り	ROE	自己資本比率
9682	DTS	148,300	176,579	**15.1**	**2.8**	**8.1**	**3.6%**	**19.2%**	**74.6%**
4307	野村総合研究所	2,843,883	2,756,040	23.2	6.4	12.6	1.7%	31.5%	41.2%
3626	TISI	777,437	797,724	**14.0**	**2.5**	**7.8**	2.4%	18.7%	55.7%
2327	日鉄ソリューションズ	601,486	700,532	21.7	**2.5**	9.6	2.3%	11.3%	**66.8%**
4812	電通総研	553,023	559,070	31.1	5.6	18.4	0.8%	17.1%	58.0%
8056	BIPROGY	471,067	446,428	**13.9**	**2.5**	**7.1**	3.0%	18.0%	48.6%
9759	NSD	209,483	241,961	18.5	3.3	9.5	**3.5%**	**18.9%**	**76.0%**
2317	システナ	155,143	182,277	17.1	4.6	9.5	**4.2%**	**26.4%**	**67.8%**

注）株価は 2026/9/10 終値、株式指標を算出する業績は今期会社計画、EBITDA を算出する減価償却費は前期通期実績、ROE 算出の純資産は直近四半期の実績、バランスシート指標は前期実績、企業価値は時価総額＋ネット有利子負債のエンタープライズバリューの数値をもとに NexIR 作成

経営指標

財務データ（連結：四半期毎)(百万円)

決算期	FY03/2023	FY03/2024	FY03/2025	FY03/2026	FY03/2027 Q1	FY03/2027 通期会予
売上高	106,132	115,727	125,908	135,213	31,020	142,000
前年同期比(%)	112.4	109.0	108.8	107.4	94.3	105.0
税引前利益	11,637	11,592	15,131	16,885	3,473	-
前年同期比(%)	102.2	99.6	130.5	111.6	86.5	-
税引前利益率(%)	11.0	10.0	12.0	12.5	11.1	-
純利益	8,001	7,293	10,635	11,644	2,309	11,700
前年同期比(%)	101.9	91.2	145.8	109.5	85.6	100.5
純利益率(%)	7.5	6.3	8.4	8.6	7.4	8.2

一株当たりデータ（連結)

決算期	FY03/2022	FY03/2023	FY03/2024	FY03/2025	FY03/2026
発行済株式総数(千株)	49,073	47,591	46,854	41,498	163,955
EPS	172.78	181.41	168.51	253.80	72.94
EPS 調整後	43.20	45.35	42.13	63.45	72.94
BPS	1376.05	1408.81	1451.61	1440.87	398.60
DPS	70.00	120.00	103.00	127.00	37.00

Note: 2025 年 10 月 1 日付で 1 株につき 4 株の割合で株式分割を実施しているため、FY03/2026 の EPS および BPS は期首に分割が行われたと仮定して算定。EPS 調整後は当該の株式分割を過去の決算期に遡及適用して算出。DPS は第 2 四半期末 60.00 円（分割前)、期末 22.00 円（分割後）を内訳とする分割調整後の数値を記載。株式分割を考慮しない分割前換算の年間配当金は 148 円。

キャッシュフロー（百万円)

決算期	FY03/2022	FY03/2023	FY03/2024	FY03/2025	FY03/2026
減価償却費	532	608	628	703	843
営業活動によるキャッシュフロー	7,589	7,642	10,410	9,181	8,929
投資活動によるキャッシュフロー	-139	-931	-8,516	-2,322	92
財務活動によるキャッシュフロー	-5,025	-9,095	-7,817	-16,087	-8,089

財務データ（%)

決算期	FY03/2022	FY03/2023	FY03/2024	FY03/2025	FY03/2026
総資産経常利益率(ROA)	14.8	14.9	15.5	18.7	20.5
自己資本利益率(ROE)	13.0	13.0	11.8	17.7	19.2
自己資本比率	78.4	76.1	73.4	72.2	74.5

出所：会社有価証券報告書および会社 IR 資料をもとに NexIR 作成
Note：会予＝会社予想、百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入 *NexIR の計算による

免責事項

本レポートは、掲載企業のご依頼により NexIR 株式会社 (旧社名：株式会社グローバルアイアール)が作成し、対価として報酬を得ています。役員、執筆者であるアナリストは対象会社の有価証券に対して何らかの取引を行っている可能性あるいは将来行う可能性があります。

本レポートは、情報提供のみを目的としており、当該企業株式への投資勧誘や推奨を意図したものではありません。

本レポートに記載されている情報及び見解は、NexIR 株式会社が信頼できると判断した情報源から得、または公表されたデータに基づいて作成したものですが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。しかしながら、正確性、客観性を重視した分析を心がけ、最終的な中立性・独立性には最善の注意を払っています。また、当該企業経営者等とのディスカッション、および独自のリサーチに基づき、我々が投資家にとって重要と思われる視点を NexIR 株式会社のオリジナル・オピニオンとして提供しています。NexIR 株式会社は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。当該企業株式への最終的投資判断はあくまでも自己の判断・責任でお願いします。

NexIR
Next-Level Investor Relations
東京都渋谷区道玄坂 1-12-1 渋谷マークシティ W22F
info@nexir.jp